



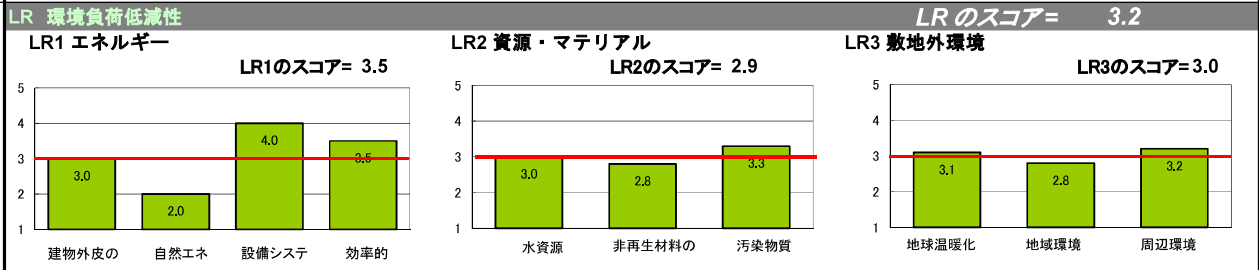
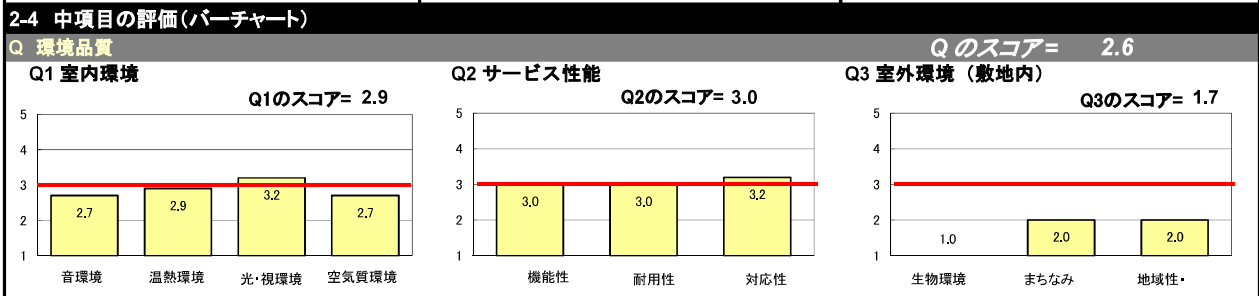
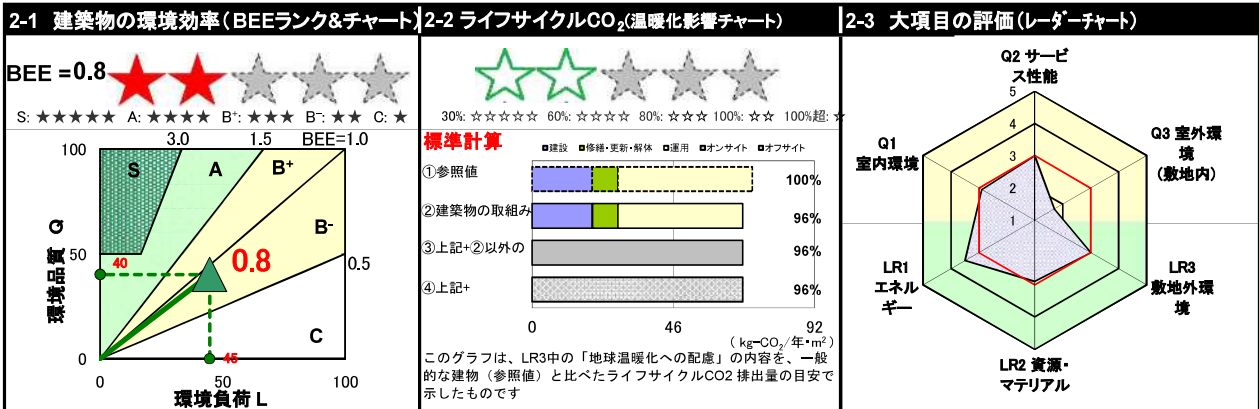
欄に数値またはコメントを記入

| | | | | | | |
|----------------|----------------|-----|-----|--------|----|----|
| 1. 建物概要 | | | | | | |
| 建物名称 | (仮称)やすい新ビル新築工事 | BEE | 0.8 | BEEランク | B- | ★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | |
|--|--------|----|----------|-----------|-------------|
| 重点項目 | 得点*/満点 | | 取組み度 | 評価 | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.1 | /5 | | ふつつ | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.8 | /5 | | がんばろう | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.6 | /5 | | がんばろう | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.3 | /5 | | がんばろう | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | | 評価 凡例 | | |
| | | | よい 4 点以上 | ふつつ 3 点以上 | がんばろう 3 点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | |
|--|---|-----------------------|--------------|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | | 得点 | 3.1 |
| <p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>③住宅部分の屋光率0.85%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすとした。</p> <p>④タイル貼の耐用年数は40年</p> | Q-1 2 2.1 2.1.2 | ① 外皮性能 | |
| | Q-1 3 3.1 3.1.3 | ② 屋光利用設備 | |
| | Q-2 2 2.2 2.2.1 | ③ 屋光制御 | |
| | 2.2.2 ④ 躯体材料の耐用年数 | ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 | |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑥敷地の49.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> | Q-3 1 | ⑤ 生物環境の保全と創出 | |
| | 3 3.2 | ⑥ 敷地内温熱環境の向上 | |
| | <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑨住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEF=0.90になるように一次エネルギーの消費を抑えた。</p> <p>⑩各階EPSに、各住戸の電力計がある。</p> | LR-1 1 | ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 |
| | | 2 | ⑧ 自然エネルギー利用 |
| 3 | | ⑨ 設備システムの高効率化 | |
| 4 4.1 4.2 | | ⑩ モニタリング | |
| <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。</p> | LR-2 1 1.1 | ⑪ 節水 | |
| | 1.2 1.2.1 | ⑫ 雨水利用システム導入の有無 | |
| | 1.2.2 | ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 | |
| | 2 2.1 | ⑫ 材料使用量の削減 | |
| | 2.2 | ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 | |
| | 2.3 | ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 | |
| | 2.4 | ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 | |
| | 2.5 | ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 | |
| | 2.6 | ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み | |
| | 3 3.1 | ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 | |
| 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3 | ⑬ 消火剤 断熱材 冷媒 | | |
| <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の96%となるよう設計した。</p> <p>⑮隣等間隔指数0.41を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p> | LR-3 1 | ⑭ 地球温暖化への配慮 | |
| | 2 2.2 | ⑮ 温熱環境悪化の改善 | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | | 得点 | 2.8 |
| <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰電気設備・通信設備ともに、浸水する危険性がない。</p> | Q-2 2 2.1 2.1.1 | ⑯ 耐震性 | |
| | 2.1.2 | ⑯ 免震・制振性能 | |
| | 2.4 2.4.1 | ⑰ 空調・換気設備 | |
| | 2.4.2 | ⑰ 給排水・衛生設備 | |
| | 2.4.3 | ⑰ 電気設備 | |
| | 2.4.4 | ⑰ 機械・配管支持方法 | |
| | 2.4.5 | ⑰ 通信・情報設備 | |
| | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | | 得点 |
| <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳各階の階高は3.01~3.26mとし、階高に余裕をもたせた。</p> | Q-2 1 1.1 1.1.3 | ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 | |
| | 3 3.1 3.1.1 | ⑳ 階高のゆとり | |
| | 3.1.2 ⑳ | ⑳ 空間の形状・自由さ | |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。</p> | Q-3 3 3.1 | ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 | |
| | "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | | 得点 |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上)</p> <p>④敷地の49.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。</p> | Q-3 1 | ② 生物環境の保全と創出 | |
| | 2 | ③ まちなみ・景観への配慮 | |
| | 3 3.2 | ④ 敷地内温熱環境の向上 | |
| <p>■敷地外環境対策 (⑤持続可能な森林から産出された木材/⑥温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑥隣等間隔指数0.41を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。</p> | LR-2 2 2.5 | ⑤ 持続可能な森林から産出された木材 | |
| | LR-3 2 2.2 | ⑥ 温熱環境悪化の改善 | |

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)やすい軒ビル新築工事 | 階数 | 地上12F |
| 建設地 | 静岡市清水区真砂町42.401~2.402 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域 | 平均居住人員 | 123 人 |
| 地域区分 | 7地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2025年7月 予定 | 評価の実施日 | 2023年11月15日 |
| 敷地面積 | 687 m ² | 作成者 | 早野 真介 |
| 建築面積 | 343 m ² | 確認日 | |
| 延床面積 | 2,911 m ² | 確認者 | |



| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|---|---|
| 総合 これは、CASBEE静岡(2021)による評価である。 | | その他 特になし |
| Q1 室内環境 住宅部分の屋光率0.85%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において屋光を制御しやすくした。 | Q2 サービス性能 各階の階高は3.01~3.26mとし、階高に余裕をもたせた。 | Q3 室外環境 (敷地内) 景観条例に適合させ、周囲と調和するように配慮した。また、敷地の49.7%を空き地とし、風の通り道を確保した。 |
| LR1 エネルギー 住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.90になるように一次エネルギーの消費を抑えた。 | LR2 資源・マテリアル 節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に影響を及ぼさないようにした。 | LR3 敷地外環境 隣等間隔指数0.41を確保し、夏季に敷地内を通る風が回復しやすいようにした。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される